

矢作川流域圏懇談会通信

R5 市民部会編 vol.3



発行日：令和5年10月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第17回市民部会WGを開催しました！

第17回市民部会WGでは、バスツアーの最終確認、公開講座の計画について話し合いました。

日時：2023年9月8日（金）15:00～17:10

会議場所：豊田市崇化館交流館 第1研修室

参加者：17名（内オンライン参加4名） *事務局含む



◆主な会議内容

1. バスツアーの最終確認



バスツアーは、9/13～9/14で実施することになりました。参加メンバーは25名程度となる見込みで、マイクロバス1台で移動する計画です。視察場所の変更等はありません。

2. 公開講座の計画



今年度実施する公開講座は、富山和子先生の資源循環や土地機能、流域に対する視点をベースに展開していく計画です。そのため、富山先生の理論や考え方について整理した結果を事務局より説明し、どう流域に展開するか等について話し合いました。また、公開講座のシナリオについて、富山先生の状況に応じて3つのケースを想定して話し合いました。富山先生の状況が明らかになった時点で、具体的なシナリオ・計画を検討していきます。「富山理論の整理」における説明事項を以下に記しました。

【富山理論の整理】

- ・ 今、「富山理論」を語る意義 これからの流域視点の課題について
- ・ 森林1：森林は水を貯める、土壌をつくる 日本の“自然”を創ってきたのは森林
- ・ 森林2：森林を育成する 森林を育ててきたのは人間
- ・ 森林3：森林の危機 「森林の危機＝私たちの生活の危機」この意味を考える
- ・ 水田1：氾濫原に水田を開く 日本の文化は米づくりの上に築かれた
- ・ 水田2：水田の危機 水と土の分離
- ・ 河川・都市1：高水工事と都市化 川に洪水を押し込め、都市が拡大する
- ・ 河川・都市2：堤防の問題点 川と都市を切り離れた
- ・ 河川・都市3：都市による緑・土の破壊
- ・ 海1：海からの恵み
- ・ 海2：森林が魚を育てる
- ・ 海3：海をきれいにすること
- ・ 日本の風景 日本は美しい水の国

3. 話題提供 農業に関するイベント案内



「Food foe Children 愛知」の藤永伊久美氏より、農業に関する以下のイベントについて紹介いただいた。

- ・ 9/23：食から考える 子どもと地球の未来フェス（豊田市民文化会館）
- ・ 11/26：人生100年時代を楽しく生きる「つながる農業」講演会（日進市民会館 小ホール）



◆話し合いでの主な意見

(・意見 ▶回答)

●公開講座の計画

■富山理論の説明について

- ・森林の荒廃がどうして起きたのかというところの説明が重要。昭和 40 年代の燃料革命や拡大造林など時代の背景が複雑にからんでいる。木材の自由化だけで森林が荒廃したわけではなく、林業体制の問題などもある。(山本薫)
- ・「農業の近代化は、水田耕作における水と土の分離をまねいた」とあるが、森との分離もまねいた。(山本薫)
- ・「栄養ある水や土壌の供給がなくなると、化学肥料・農薬の使用が増える」というのは逆に、化学肥料・農薬が先行したことにより土壌や川の重要性が忘れられてしまったというのが現状と思う。(山本薫)
- ・多摩川の例のように、「堤防を造ることによって土地が安全になった」という勘違いがある。勘違いしているから都市化する。堤防を造ると堤防の中を流れる水しか処理できない。溢れた時のリスクは大きくなっている。(近藤)
- ・捨てなくても流れてしまうプラスチック問題を都市は考えなければいけない。流域から収奪して、いらぬものを捨てる。この問題を議論していくことで、流域圏懇談会としても勉強になると思う。(近藤)
- ・資料全体をみた時に、海の活動をどのように持っていくかという点が出てこない。海はどちらかという結果論として出てくる。3 部会に集まってもらった時に、海に関する内容が少々薄いかなと思う。(光岡)
- ▶ 海は大きな関係がある。最近わかってきたのが海底の湧水。海底の湧水はきれいでも栄養分がある。澄んだ豊かな湧水は水と緑と土のコラボレーションでもあり、海部会への問題提起にもなると思う。(井上)
- ・団粒構造という土の構造は、水持ちもよくて、水はけもよい。森や畑の土からもらった水で海も成り立つ。畑や森も地下の部分でコミュニケーションがある。それを上手く使うことが森づくりに役立つと思う。(井上)

■富山理論の展開について

- ・富山先生の講演は、流域視点での山・川・海の役割から林業者・漁業者・住民が考えなければいけない理念のような内容になると思われる。そこから農業問題に絞り込んでいくシナリオを考える必要がある。(松沢)
- ▶ 農業問題に落とし込む必要はない。流域全体の資源循環などを都市住民に知ってもらうことが重要。(山本薫)
- ▶ 富山先生の考え方や流域視点を広く知ってもらうほうが重要と思う。(光岡)
- ▶ 富山理論からいくと、流域環境管理や流域連携とかの視点にもっていくほうがやりやすいと思う。(松沢)
- ・講座をもつ理由を明確にして、「こういうことをお話ししていただきたい」という方向もある。なぜ今振り返るのか、この間我々は何をしてきたのか、そういうことが富山先生の関心の中には当然あると思う。(清水)
- ▶ 富山先生が登壇ではなくビデオメッセージ形式となった場合、我々が今問題としていること等への富山先生の考えを質問形式でインタビューする方法もある。テーマが絞れ、ディスカッションもやりやすくなる。(松沢)
- ▶ 50 年前から富山先生が問題提起されているが、現時点においても違和感はない。富山理論の本質的なところが変わらず都市の人に広まっていない。もう一度、今の時代に合わせてやるのが大事ではないかなと思う。(近藤)
- ▶ 富山先生の登壇が万が一無理という場合でもやる価値は十分あると思っている。富山先生が登壇できない可能性が高いと思うので、それを前提に考えていくほうがよい。(近藤)
- ▶ 富山理論を語ることは大事。流域圏懇談会で流域連携を進めていく中でやる意義は大きいと思う。(松沢)
- ▶ 近藤さんが言われたように、富山先生が言われているのは当たり前理論。この「当たり前」は次世代に引き継いでいかなければいけない理論であり、知らない世代にしっかり伝えていかなければいけないと思う。(松沢)
- ・富山先生が関わってこなかった新しい問題が出てきている。富山先生がこれまで書かれてきたことをベースに、新しい視点で富山理論を考えていくことが大事と思う。(近藤)
- ・富山先生の「海は生きている」を読んだ時、流域圏懇談会の 10 年誌と方向性が似ていると感じた。都市の人たちは「いいとこどり」していることを気づいてもらうようにしていかなければいけないと思った。(沖)
- ・講談社の担当に、10 年誌、事例集、今回の富山理論の資料等を送ってきたが、講談社担当の態度が明らかに前向きな方向に変わってきた。我々の資料が人を動かしていると感じてうれしく思った。(沖)
- ・富山先生のお話しを聞くことは非常によいことだと感じた。知らないことを知ってもらうよい機会。そこから自分たちは何をすればよいのかを考えていくところまで持っていけると公開講座の意義が高くなっていくと思う。(藤永)

■公開講座の進め方等

- ・沖さんにかんばっていただいているが、富山先生に登壇いただくことはかなり難しいかなと思う。この部分が決まらないと具体的に進められないと思う。(光岡)
- ・「都市のいいとこどり」と書いた発端は、渋沢寿一氏のお話しから。富山先生と渋沢寿一氏の話しはつながると思う。今回の公開講座は富山先生だが、シリーズとして渋沢氏にも登壇していただきたいと思う。(近藤)
- ・富山先生が言われている理論をもう一度確認していくことと、それをベースにしてディスカッションすることが重要だと思っている。富山理論をベースにすれば、何らかの方向性が出てくるのではないかと期待している。(山本薫)
- ・富山先生のお話しの後でのディスカッションで、海の人、山の人、都市の人、農業者が何をすればよいのかを考えて、何か答えを出せるような機会になればよいと思う。(藤永)
- ・今、確実に動かなければいけない。動くためには、この理論をベースにしなが、自分たちの問題としていくことが必要と思う。(清水)

今後の予定

■中間報告会 日時：令和 5 年 11 月 13 日(月) 14:00~16:00 場所：愛知県西三河総合庁舎 10 階大会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。